

# 清二中にやってきた昆虫たち 2 飛蝗

R2,7,23

理科の授業で生物の仲間分けを習います。植物でいうと種子植物は、被子植物と裸子植物のグループに、さらに被子植物は双子葉と単子葉とというように大きなグループからさらに細かいグループに分けます。体のつくりなどで仲間分けをしますが、最近ではDNAという遺伝子情報を利用した分類が主体になってきていますね。研究が進んで、分類が変更になるケースが結構あり、10年も前の図鑑と比べると、結構変更されています。ネットの情報などでも古いものが時折みられるので注意が必要です。

図鑑では「～科」というような専門的な言葉を使って仲間分けを行っています。大きなグループのくくりから「～界、～門、～綱、～目、～科、～属の 種類名」という具合です。

カントウタンポポを例にすると『植物界 被子植物門、双子葉植物綱、キク目、キク科、タンポポ属の種類が「カントウタンポポ』という具合です。さらにこの間に「亜科」とか「上科」などを加える場合があります。

## 清二中で出会ったバッタの仲間

**ショウリョウバッタ** (バッタ目 バッタ科 ショウリョウバッタ属) ※バッタ亜目、バッタ上科など、さらにもう少し分かります。

メスの体長は9cm で、触覚の先から足を延ばした先までは18cm にもなる大型のバッタです。色は生活している環境により茶色のものもいます。オスは「チキチキチキチキ…」と音出しながら飛んでいくので、チキチキバッタとも呼ばれています。スズムシやコオロギが鳴くのととは、少し違うようです。



**コバネイナゴ** (バッタ目 バッタ科 イナゴ属) ※

メスは4cm くりで、他のイナゴ属の仲間より翅（はね）が短めです。名前の由来となっているように稲の葉を食べるので害虫とされてしまいますが、信州や上越地方では、昔から佃煮の材料としても使われています。ひと瓶 1,000 以上もする高級品です。写真は幼虫ですね。



**クビキリギス** (バッタ目 キリギリス科 クビキリギス属) ※

体長は6cm くらいで、バッタの仲間はメスの方が体が大きいことが多いのですが、この種は同じです。鳴き声は「ジーーーーーー」という機械的な声です。鳴くといっても、昆虫の場合は翅を震わせて音を出します。



清二中の敷地内には、まだまだ他にも沢山の種類のバッタたちがいそうです。見つけたら教えてくださいね。ところでバッタの仲間の多くは、メスの方がオスより大きいですが、何ででしょうか？

【関連授業】 2年単元2動物の生活と生物の変遷

【関連動画・サイト】

★コバネイナゴやショウリョウバッタの見分け方は、こちらのHPをどうぞ！

① こどもの国HP (ばったを観察しよう)

[http://www.kodomonokuni.org/nature/fall/fall\\_batta.html](http://www.kodomonokuni.org/nature/fall/fall_batta.html)

★クビキリギスの鳴き声は、こちらのHPを開いてみてね！

② 兵庫県立 人と自然の博物館HP (日本の昆虫・カエルの鳴き声)

<https://www.hitohaku.jp/material/1-material/sound/kirigirisu/index.html>

①



②

